

## 13 本センター認定看護師の活動の広がり—年次推移と成果

病院看護部 粕谷陽子 篠崎菜穂子 堀岡美由紀 新家尚子 栗生田友子

日本看護協会で資格を得た認定看護師は、平成25年に本院で2名が初めて誕生し、以後今日までに5名が名前を連ねた。分野は脳卒中リハビリテーション看護、感染管理、看護管理の3分野である。この発表では、看護管理を除き、現在活動を行っている4名の認定看護師としての実践を示し、過去3年間にわたる評価を行うとともに、成果を踏まえ、認定看護師の活動の課題と、認定看護師が貢献できる病院システムと体制整備について示したい。

### 1. 認定看護師としての活動の内容とその広がり

認定看護師としての活動は分野によってその使命が異なるが、ここでは2分野に共通して、「実践活動（実践）（指導）（相談）」「研究論文・学会発表・書籍執筆」「院内研修会の開催」「講義・講演」「その他」に分けて集計した。

図1で示すように、目立った推移としては、院内での研修会の増加、学院教育課程での講義数の増加がある。また、専門性を高めるまでは経験できなかった書籍の執筆、専門誌の依頼原稿の執筆、院外講演などが数は少ないが、実績として上げられてきた。

認定看護師の分野で見ると、感染管理分野ではライン上の活動ではなく活動日を週1日設けているため、コンサルテーション活動、現場ラウンドなど診療報酬にかかわる独自の活動を展開しているのに対し、脳卒中リハビリテーション看護分野の活動は実践業務に終始している傾向がある。これらは認定看護師の対象の違いや期待されている活動内容の違いによるものと考えられる。また、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の実践自体が少ないが、認定看護師としての実践が、スタッフとしての実践を含むものであるため、評価しにくいことがあげられる。役割モデルの発揮と、その活動成果を客観的に評価できる指標が必要である。

### 2. 活動成果

活動成果は、まず【実践】では、①患者の実質的な離床の促進、②手指消毒剤の的確な選定など、【指導】では、①コンサルテーションや教育への参与による現場スタッフの知識の獲得、②スタンダードな感染防止策への意識の広がり、【相談】では、①現場からの相談件数の増加により迅速な問題解決などがあり、それらの【総合的な成果】として、「診療報酬加算への貢献」「他病院との認定看護師間の交流と連携の強化」などが進んできた。また活動が広がることで、認定看護師の知名度と役割認識の拡大が図れている。

### 3. 課題

認定看護師の活動は、最終的には現場のケアの質、医療の質の向上を目指している。臨床現場において、専門分野の知識・技術を生かした看護実践を積極的に行い役割モデルとなることで、スタッフの知識・技術の習得を推進し、患者の満足度向上につながると考える。したがって、日々の活動は実践につながる必要があるとあり、活動のしやすさを組織的に担保することで、認定看護師が専門的な知識や技術を生かして現場のケアに貢献できると考える。

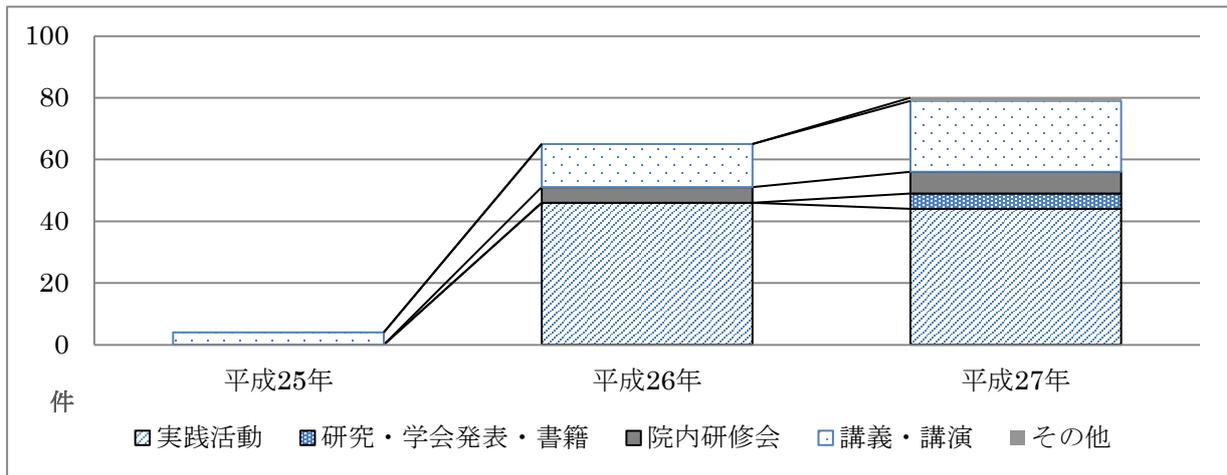


図1 院内認定看護師の活動内容別年次推移

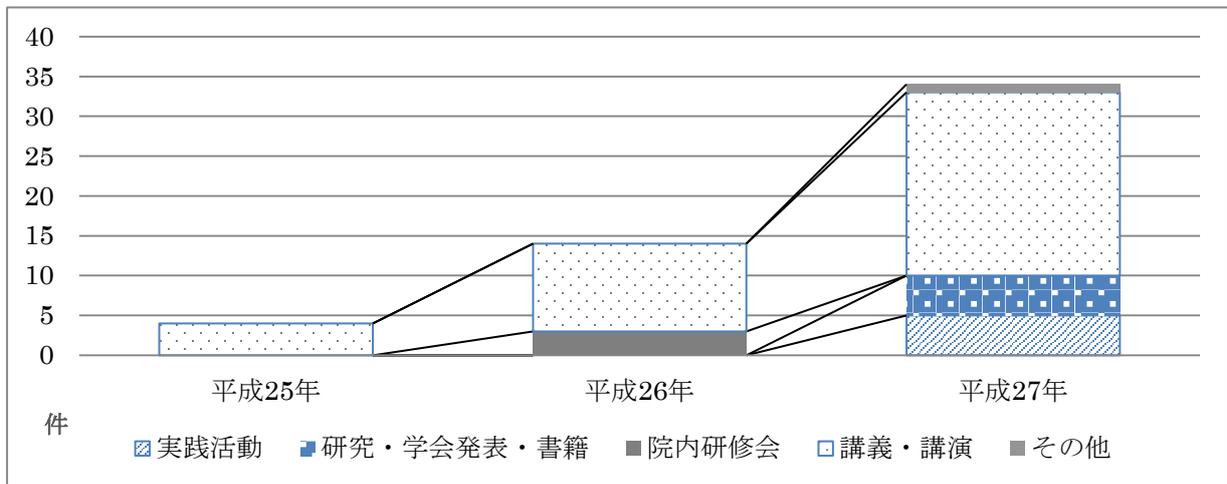


図2 認定分野別 活動内容と年次推移 (脳卒中リハビリテーション看護)

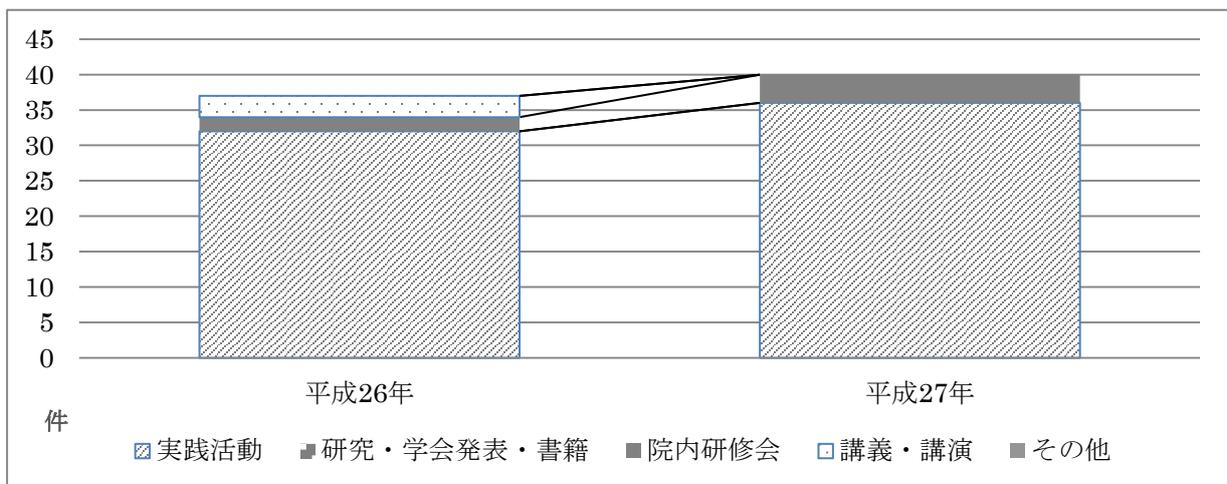


図3 認定分野別 活動内容と年次推移 (感染管理)